

## ジャムズネット東京メンバーインタビュー 第2回

聞き手：池田みどり

第2回は、厚生労働省横浜検疫所検疫衛生課長である古閑比斗志氏。外務省で各国の医務官として活躍もされてきました。(2010年4月以降関西空港検疫所企画調整官として勤務)

### ■古閑比斗志氏

厚生労働省 関西空港検疫所企画調整官。日本渡航医学会理事。東北大学・福島県立医大非常勤講師。女子栄養大学短期大学部特別講師

略歴：外務省入省後、モンゴル、ホンデュラス、上海、専門官、外務省診療所、アフガニスタン、マイアミ領事館医務官として勤務。[日本渡航学会](#)



クウェートにて

### ・医師になろうと思ったきっかけは？

幼少のころ、サイボーグ 009 を見て、ギルモア博士のようになりたいと思い、その夢は褪せることなく、医師を目指し、四国愛媛大学医学部に入学。その後、千葉、徳洲会病院に勤務するようになりました。大学病院に入らなかったのは、より広い知識・技術を得たかったからです。研修で内科に進むことに決心し、3年後には、葛西循環器脳神経外科病院で、消化器内科の医師となりました。

### ・医務官として各地に赴任

子供の頃から旅行が好きでした。外務省の医務官公募で、医務官になり、まず赴任したのはモンゴルでした。モンゴルはまだまだ医療環境が整っておらず、CT 機器も稼働しているものは1台しかない状態。手術も満足な機器のない環境で施行しなければならないような環境でした。医療先進国の日本からの医務官ということで、多くのアドバイスを求められたり、各国の医務官との協力体制のもとで、医療に尽しました。

## ・ホンジュラスで、自衛隊による日本初の国際緊急援助隊の助けを請う

2年半後、中南米のホンジュラスに赴任。気候もよく、医療も米国の影響を受け、モンゴルと比較するとよい環境でした。1998年10月、100年に一度といわれるハリケーン・ミッチが発生。約14,000人も死者や行方不明者を出しました。まず先遣隊が到着し、彼らと共に活動しました。その後日本で初の自衛隊による国際緊急援助隊が太平洋を越えてホンジュラスの首都テグシガルパに到着しました。ハリケーンで川のようになった都市部の防疫作業、テントでの医療など、医務官としてやるべきことが山のように多かったです。

## ・上海から帰国、外務省福利厚生室専門官に

1999年から2001年には上海に赴任。当時、上海は経済的にも急成長している時期でした。日本人で帰国して手術を受けなければならない患者さんに付き添った経験では、いかに緊急移送費がかかるかということを実感したそうです。医療機器を搭載した専門ジェット機で、医師の付き添いのもとで帰国する場合、最低1000万円はかかります。その後、帰国し、外務省大臣官房会計課福利厚生室専門官として任務。初代仲本光一氏(現・タンザニア医務官、ジャムズネット東京代表)を継いでの任務でした。

## ・アフガニスタン、そしてマイアミでのハリケーン・カトリーナ

2004年からはアフガニスタンに赴任。2005年から3年間はマイアミに赴任しました。ここでもハリケーンと遭遇。その後、「嵐を呼ぶ男」?と呼ばれるようになりました。2005年8月末に発生したハリケーン・カトリーナは、ニューオーリンズを壊滅状態にしましたが、マイアミでも停電等被害は大きく、日本人被害者も多く出ました。

## ・横浜検疫所に勤務

その後、厚生労働省の管轄である横浜検疫所に勤務。この横浜検疫所では、1899年に野口英世が勤務し、ペスト患者を発見、診断したことで知られています。その後、野口はニューヨークのロックフェラー医学研究所で数々の研究を発表、残念ながらノーベル賞を受賞する前に黄熱病のためアフリカで亡くなっています。同じ検疫所に勤める古閑先生も野口英世を尊敬するひとりです。

検疫所では、輸入される食糧の安全をはかるため、毒性の検査なども行います。また、出国する方の為にワクチンの接種、入国する方の診断なども行います。

## ・日本渡航医学会について

2001年に「海外渡航者の健康を考える会」に入会。その後「日本渡航医学会」に改称。渡航者、在留邦人などを対象とした感染症、予防接種、メンタルヘルス、生活習慣病、救急医学、医療情報提供など多岐に渡って行っています。現在、古閑先生はこの医学会の理事として、活躍されています。

## ・今後の医療での問題・課題について

1. 世界が交通手段の進歩やグローバル化でひとつとなり環境破壊が進む昨今、新型インフルエンザをはじめとする新興・再興感染症対策には今後も力点を置かねばなりません。その為にも渡航(旅行)医学に関する理解、知識・技術の普及に努める必要があります。
2. 海外から来る渡航者には常にやさしくありたいと思っています。夏暑く湿度の高い日本は欧米人にとって住みにくい環境です。特に医療に関してまだまだ改善する部分が多いと思います。
3. 旅行とは人類にとって非常に大切なものであり、人生を彩るイベントです。その旅行を楽しく過ごすためにはまず安全に旅行が出来るようにすべきであり、その為の努力を国が率先してすべきです。また家族であるいは単身で海外に赴任しなければならない方々の不安を取り除くことも必要です。
4. 情けは人のためならず。日本はアジアにおける先進国でありその経験・技術を生かして今後もアジアに対して医療・教育等の援助をすべきです。

## ・ジャムズネット東京に期待すること

1. 日本から海外に行く人たちの利便性を考えて、米国のトラベルクリニックが行っているように、黄熱ワクチンや海外でしか打てないワクチンが、日本国内のトラベルクリニックでも接種できるようになればと願っています。その為には本当に必要としている方々からの応援が必要です。日本に世界に東京から意見を積極的に発信してください。
  2. 本年2010年は平城京遷都1300周年という記念すべき年であり、10月にアジア太平洋渡航医学会を奈良で開催するので皆さんも是非参加してください。
- 日本渡航医学会 <http://www.travelmed.gr.jp/>